

第11回 市長と話そうの様子

開催日時	令和7年9月5日(金) 15:00 ~ 16:30	場所	のつてらす 飲食スペース
団体名	ひやくすた実行委員会		
団体概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「ひやくすた」の開催 ・うすき食の映画祭の運営 「ひやくすた」とは・・・「ほんまもん農産物」をはじめ、自然に寄り添った栽培方法で野菜を作っている農家さんと、その野菜で作る加工品などを販売するファーマーズマーケット。臼杵石仏公園で毎月第1日曜日開催。(5~9月は7時~、10~4月は8時~)		
話し合いのテーマ	①ひやくすたの開催について ②臼杵の有機農業について ③新規就農について		
参加者	7名(団体メンバー6名、西岡市長)		

対話の様子

対話では、「ひやくすた」の開催や臼杵の有機農業、新規就農などについて意見交換が行われました。参加者からは、以下のようなお話やご意見がありました。

(「ひやくすた」の開催について)

- ・「ひやくすた」に来てくれるお客さんの比率は、市内と市外が半々くらい。市外からのお客さんは大分市からが多い。毎回来てくれるような熱心なファンも多いが、市民の方への周知不足を感じている。

(臼杵の有機農業について)

- ・臼杵の有機農業の取組は市外の方の関心は高いが、それに比べ市内の方の関心が若干薄いと感じている。生産者も含めて臼杵市の中で有機農業に対する理解が広がればいいなと思う。
- ・農業者が生産物の品質や収量、さらには経営を考慮する際に、最終的に行き着くのは堆肥の重要性である。この観点から見ると、臼杵市は「臼杵市土づくりセンター」で「うすき夢堆肥」を製造しており、市内の農地にこの堆肥を散布する場合、市場に流通している堆肥と比較して非常にリーズナブルな値段で高品質な堆肥を使用することができる。これは農業者にとって非常に恵まれた環境である。

(新規就農について)

- ・ほんまもん農産物に取組みが始まった頃の生産者は退職後の人が多かった。生産者を増やすためには、退職後の人を口説いて生産者になってもらう取組が必要だと思う。それに加え、若年層の新規就農者を育成していく取組が必要。
- ・一時期に比べ、農業を志す人が減ってきている。そのような中、有機農業で新規就農する人を支える体制が整っていないと感じている。就農前に、しっかりとした技術や農業経営などを学ぶことができる体制づくりが必要。京都には民間のオーガニック農業スクールがあったりする。

市長からは、以下のような話がありました。

- ・「ひやくすた」は、私も昔から通わせてもらっているが、月に1回、臼杵石仏公園を舞台にあのような素敵な空間をつくってくれているのは非常にありがたい。熱心なファンも多く、特定の店舗や商品を目指して訪れるお客さんも多いため、行列ができている店舗もある。印象としてそういった熱心なファンは市外の方が多いように感じている。私としては臼杵市の方にも、もっと気軽に、そして当たり前のように訪れていただきたいと考えている。ユネスコ食文化創造都市ネットワークへの加盟認定と言う大変素晴らしい称号をいただいていることも踏まえ、このイベントの価値を臼杵市民の方に実感していただけるよう、改めて、臼杵の食文化や農産物の素晴らしさを市民の皆さんと共有していく必要があると考えている。

たくさんの貴重なご意見ありがとうございました。“市長と話そう”では、市民の皆様の声を聴き、一緒に考え、よりよい臼杵市の未来を描くため、今後もさまざまな団体と対話を行ってまいります！

